[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

桑二畔　貞佐

[illegible]



歳旦

福寿庵主人

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

○人日

七草や本はけの舟に長不
たてるのかきを笑ふ宝尊　法師
蜻蛉の斧のおとしや春の雨　宗任
西章を後の世の古さよ　法師
生櫛を敲く音や世もすがら　書記
かつらめ姫はいつの一つ　法師
恵まれの○は小紅の艶ばかり　法師
粧を仕立て宗也の中　宗任
梅よりも九日菖蒲の音　法師
ゆかしさを行春比の念　書記

ひとつの雨も猶かな
やうやうの春の雨
七草の雪かつ消の
花をもとかぬ春の
ゆかしさ

一花乃あまり八百
ゆかしさ

晋子十七回

吉惰の十年の夢の七つ物　露沾

七草の都の名と
なりぬ数八背
もとよりの春
白ひかりの春を
なる畑
宝尊法の春の
なりの門
霞の恵歌
人をとをもも
なりなるか

蘭臺

むめの園まあるも名ハとそ
酔ふ松もそなむ先の春　如蒿
と陸れ式アハ質新芽梅　章風
松も春やうそ麻志の庭の芽　蘭山
法師梅もいつを首ふれの宿　子稲
もるるまや普天の下の塀の梅　翠之

宝晋高　古墳を上行寺より

梅

[illegible]

[illegible]

[illegible]

梅の香や鶯の
藪

梅の香や行くすがら
ゆき女

梅の香や
百里

梅の香や
山寺

梅の香や
日光

梅の香や
梅の香

梅の香や
梅の香

梅の香や
梅の香

口惜や古債を出す角力元　負仕
豊の庶乃日ッ口　序今
葉ゟ実の縁も果て李時　琴沢
百里
右かくしひく苗代乃笛　沈河
蓑の雫ひろう山柳　番如
笠引の筆墨とろ関ヶ原　行き
行き駅けく殊勝の出立　序今
猿元の姿地ゟ出り　琴沢
馬ゟ目乃の鳥帽子　百里
ちゝちゝ惜多女乃中次　沈河
解ゟ花乃笛　番如
流の柳哉

流てゝ根ゟ
柳哉

青柳ゝこちらめ
世話てゝの方
師しき根と加へ
柳哉

十

こま鳥、巣元如葵立く　番如
三日の雪伊き巣の縁　負仕
前と云てつきゝ元ら　琴沢
百里
なの鶯ゟ鶯ゟ　沈河
夜地の仕元ゟ同し世話蓋　序今
神ゟ角乃ゟ乃中ゟ　負仕
うつ陽と無ふい杵の下　番如
ゟ宅へゟ　百里
一人も内ゟ　沈河
出ひろけく　序今
ひろけく　負仕
言の至腐尾

[illegible]

○春雨

[illegible]

[illegible]

[illegible]

この春の雄鶏い焦ら嵐らと　可圭
行のいろいろの踊を五十年　梅海
樽くし飛しを生きは仕ちけ　宗住
独ぬ小鳥い　ゆさぶると　松雪
粮生まつき出されてもあめ　魚天
鞠の鞠の　衣ぶすく　この重
行ぶてすると油菜搗ち　沾海
六花僧よ目涼るるは　雪鶴
夕霧の撥てもりとと賞大滝　松雲
ちんとんが　まるうしろの自　宗住



この春の雄鶏い焦ら嵐らと　可圭
行のいろいろの踊を五十年　梅海
樽くし飛しを生きは仕ちけ　宗住
独ぬ小鳥い　ゆさぶると　松雪
粮生まつき出されてもあめ　魚天
鞠の鞠の　衣ぶすく　この重
行ぶてすると油菜搗ち　沾海
六花僧よ目涼るるは　雪鶴
夕霧の撥てもりとと賞大滝　松雲
ちんとんが　まるうしろの自　宗住

卯　震　山吹

卯と花よ歌の　凡中
紫八重よ歌先　
さくら歌ちる

山吹

桜よりのもも　沾
山吹の屋かけ　蝸
もの幅　梅海
迎卯五月雨　
二章

流し舟て流し川　
ゆくゆく岡し淋　
雨の世の流て　
ゆくゆくまま行

弓い花の雲より味噌ッ雷おるめ　この重
巣なる出ふ　舊仙憂雪南小　沾海
やふ入の立て　梅海
蕪雪沾へ　たくて　一面　魚天
戸ぬ横ふ　ても沾ッ夕桜　雪鶴
風ッ光の東雲い　六天　この重
沾ッの捨し沼　松雲
孔雀雪屋い　皆旦那　宗住
ッ雪の世ッ流て　梅海
四五万ッ　雪鶴

橋

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

桃花

[illegible]

[illegible]

[illegible]

深雪

大汐を向へて十三枚　長谷川
[illegible]　[illegible]　[illegible]　古井
[illegible]　[illegible]　[illegible]　[illegible]
[illegible]　[illegible]　[illegible]　[illegible]
[illegible]　[illegible]　[illegible]　[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

中唐

[illegible]

[illegible]

[illegible]

義仙源と云ふ
[illegible]
[illegible]
[illegible]

藤盃

ふ易の伊を過く

[illegible]と入れ花の[illegible]の兆す　柏李

[illegible]哲も賺雅もかくやむる枝　治化

[illegible]の[illegible]　[illegible]の[illegible]の[illegible]の

[illegible]

西日[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

行くゝ
むさし中そゝ
ゝ
ゝ

郭

[illegible]

[illegible]

[illegible]

水郎

[illegible]十一日牧谷やほとゝぎす　川楊
[illegible]の時雨　戎子
十二夜もとゝとゝぎす杜鵑　適志

蛍

[illegible]の杭の松[illegible]　井奥
梅嶺や弘法尚き[illegible]　貞佐

[illegible]月[illegible]　扇樂
[illegible]と[illegible]古峯伊万外　白鴎
[illegible]一声白赤壺　一葉
蜀祝[illegible]の場　蝶汎
跡自[illegible]新く時鳥　董洞

新人山の[illegible]
山の[illegible]

蕨

[illegible]と村の人問[illegible]
いとゝかな

○菖蒲

[illegible]　後凋
[illegible]袖[illegible]の[illegible]　貞佐
[illegible]へ他村へ[illegible]　壺峰
丸い[illegible]の一角あい額[illegible]　凧夕
[illegible]あ[illegible]　雨橋
[illegible]　詠而
[illegible]　如格
[illegible]　如貢

田植

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

○藤蘿

貧乏人の蒔絵の
ちらしのかたてに
藤と花を散らす
塗のいと
清なる秋の根の
ちく深う
藤の花の清なる
雅ハ何

貧乏人ハ蒔絵の
蒔絵しらず 花の焼米
世長ハ蜀黍そを出め九稲等
月光ハ不こま 陳ちまわる
晴幕ハ乙の下白大般若
鶯乃中 胃五百年松
四ひらをハ良をハそ古家女
拾仙の石 吐 ゆけて 鮮
胸の月ふらけうハ橋 廊
ふり 鶯 古 の 分 系かる舟

和雅 矢作 法純 沾山 矢作 和雅 沾山 法純 和雅 矢作

○氷室

清しさ氷室
京くらの
蓋うて
つめてぶり
氷室

三島乙河金ハもも物こ
佛の嬢ふ
宮ふ女中けの弥ふく
蓋の月平
柏手乃和ハ
光ふ 顔
庵軍の首
主ふ
か、ゆくも
花弁の法

沾法 法純 沾山 矢作 和雅 沾法 沾山 法純 沾山 沾法 和雅

○蟬

ふ物々風も
用のあるかう
せみのふ々かハ
ふ根よりかう
書風とふのめて
蟬の文

柳 絶 約
ふ乃
嘉日ちいさ紀馬の紅
花弁の法

和雅

○紙漉

丹深の貝売地形秋の風　沾山
沙鶉　掠め　土与　林花　徒純
汚らすも気なぬ世ゆい脱ゑ庭　雄
作法の徒　弟も倦ゑ怪ゑ　徒
一息ゑ市ゑ行いんもゑん　貞佳
つゞでゑ消して　怪　深ゑ　徒純
玄ゆい鼻ゑ　ゆの咲ゑ　沾山
ゑ　丁ゑ　鶉ハ　物音

○ハナの笑
源ーさゑ花ゑ
ハナゑの仮の手
○ひゑの笑
ゑの笑に新も
ゑ源

紙屋の取ゑ
ゑゑ源分
庵傍の蛍源
ゑ紙屋の前

道別
ゑも道ゑ叶ゑ
ゑの源
源ーさゑ花ゑい
ほどり庵ゑ

なる情ゑ庵と品ゑ　卜仙
巖の　手下　瓦ゑ　貞佳
物ゑゑ彼庵ゑ　氷花
敷ハ羊　ゆゑの枝や　雁山
月ゑゑ馬　長水
ゆゑ　ゆゑ　文石

あいすり

藤風の拙吟

伊勢の人々に対して

あさくら八四郎の

俳句仕様の事

白雨郎の日和山

日和山

米三郎の辛酉年

中の一下句

○雲峯

眼はさるふる八

時々の景

松風と拙吟

ゆめたれ

ゆめのまち

あいすり

あとむけて

きまいあ

下句まで

運別

何里行と称月の

うつりゆくのまち

雨白の柳

戸口の糠

いるかし腸と

ゆけく

下句まで

背も

何里行と称月の

星月夜

眺しまち

ゆめ

ゆめ

ゆめ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

清水に蓮も春もなかりけり

[illegible]

[illegible]

[illegible]

おのくは柳と人人蓮のよ　藏六
ゆれたうらうれしや蓮の葉　治雫
竿いるは蓮の手柄や蓮百歩　雞口
きくてる花の君子や芝者　也聽
開せるわいろい蓮花寄るゆ　何虹
出まいぞ沼ちと花の蓮ぞ　貞佐

乾坤打破まれい
炷さまし飽るぬも
ものにせうとも

燕々軒

一樣ふうきとゆく蓮ぞ　貞磨
陽しわいろ接桐の羽衣角　貞伊
ものを人形先飯ま、粘口出く　秋浦
男ぞ花いい孫ゆとく　和風
あまり人鼈配まいい月まま　童翁
ものを虫ぞ虫ものを　拾翠

村雨は光を絶て青舟　蓮雨
もゝ尺とけて面白とかの侍　椿井
秋河は流くゝ人を捻古　蹲竹
紅葉の山ゝ袖に内ひろ　琴雪
此高い高さ滝の内ひろ　孤雪
指しもゝ紅葉は指し　秋濁
裁て弃切て高ゝ地紅　矢佐
蛇行国て吾しらのもこさ　新蔵
絶涼の青国なるゝみい侍り　秋尾
幸ひざ〇い新し　叢　矢磨

十

新雪新る賀い何の守　橋井
筆とひゝ山は呪いろふ　清舟
曲水の宿考よゝ新駝の米　秋濁
胎内潜り　ゝ侍ゝ橋　巷雨
ゝんもゝ尺ゝ古紅深　指琴
ゝ先ゝゝ海いみ指　矢佐
刺ラセゝ男紅ゝ〇の松　琴雪
ゝ指ゝ脇ゝ　湖　橋井
飛糸のいひ重ゝ　時雨
林の扉と先ゝ　矢磨
絶氏　指琴

[illegible]

[illegible]

[illegible]